

教育だより

前回、小学校の新1年生を紹介することが出来なかったため、今回紹介致します。

福井小学校



磯谷 奈津子
(いそたに なつこ)



永海 舜也
(ながみ しゅんや)



福井 美空
(ふくい みく)



元吉 翔也
(もとよし しょうや)



淀 翔瑠
(よど かける)

元気いっぱい1年生



前田 朱葉
(まえだ あやは)



浜板 里帆
(はまた りほ)

お友達たくさん！



ムラー彩グレーテル
(むらーさいぐれーてる)



藤田 帆乃夏
(ふじた ほのか)



木村 美佑
(きむら みゆう)

海士小学校

勉強はたのしいよ♪



村尾 優衣
(むらお ゆい)



笹鹿 真央
(ささか まひろ)



浜崎 遥香
(はまさき はるか)

第65回全隠岐陸上競技選手権大会

4月29日(金)、隠岐高校陸上競技場において第65回全隠岐陸上競技選手権大会が開催されました。

入賞者が多く、海士の子どもの底力をみせつけた結果となったように感じます。入賞者は左表のとおりです。



種 目	順 位	氏 名	学 校	記 録	
小学男子	200 m	3 位	波多 瑞月	海 士	34" 2
	1000 m 1 組	1 位	戸鳴 巧貴	福 井	3' 28" 3
	1000 m 2 組	1 位	戸鳴 遥樹	福 井	3' 32" 0
	400mR	2 位	福井小		1' 01" 3
	走幅跳	3 位	戸鳴 巧貴	福 井	3m77
女子 小学	200 m	2 位	江川 こずえ	海 士	34" 6
	ソフトボール投げ	2 位	西上 耶弥	海 士	39m61
中学男子	3 年 100 m	2 位	青木 海渡	海 士	13" 1
	全 200 m	3 位	青木 海渡	海 士	26" 5
	全 400 m	1 位	本多 智洸	海 士	1' 02" 2
	全 800 m	1 位	中川 拓海	海 士	2' 21" 8
		3 位	梅野 丈二	海 士	2' 28" 1
	1 年 1500 m	3 位	中村 航太	海 士	5' 15" 9
	全 400 m R	2 位	海士中		51" 7
	4 種	1 位	本多 智洸	海 士	1131 点
		2 位	濱板 大悟	海 士	929 点
砲丸投	1 位	宇野 翼	海 士	9m90	
中学女子	1 年 100 m	3 位	佐藤 光瑠	海 士	15" 0
	3 年 100 m	2 位	戸鳴 亜美	海 士	14" 7
	全 200 m	1 位	戸鳴 亜美	海 士	30" 4
		2 位	高橋 芽生	海 士	31" 1
	1 年 800 m	2 位	佐伯 京香	海 士	2' 56" 9
	全 800 m	1 位	藤田 真帆	海 士	2' 46" 9
	全 1500 m	2 位	藤田 真帆	海 士	5' 41" 3
	1 年 400 m R	2 位	海士中		1' 01" 4
	低 400 m R	2 位	海士中		1' 01" 0
	全 400 m R	3 位	海士中		1' 00" 5
	走高跳	2 位	柏原 礼奈	海 士	1m25

第65回全隠岐陸上競技選手権入賞者（H23・4・29 隠岐高等学校陸上競技場）

シリーズ

元気印！海士の学校

その① 授業公開で授業力アップ！

これからこのコーナーでは、海士町内の学校で頑張っている子どもたちや先生の様子を紹介していきます。

子どもたちの学力向上は、海士町の学校教育の重要課題の一つです。学力向上のためには、先生方の授業力を高めていくことが大切です。

そこで、昨年度より町内の小中学校で行われているのが、授業公開です。授業公開とは、授業を同じ学校の先生や教育委員会に配置されている指導主事に見てもらい、助言や指導を受け、授業をよりよいものに改善していくもので、海士町独自の取り組みです。

一学期には、一人当たり2回前後、中には5回以上の公開授業を行う先生もいらっしゃいます。

中学校では、その時間に授業のない先生も授業を参観されます。校内で作られた「授業参観表」に、見て気づいたことを記入し、授業者に渡します。

小学校では、担任が他の先生の授業を見るのは難しいので、校長・教頭先生や指導主事が授業を参観し、気づいたことを直接伝えたり、書いたものを渡したりしています。



授業を見られるというのは緊張するものですが、いろいろな目で見てもらうことにより、自分の授業のよいところや課題に気づき、改善していくことができます。

また、子どもたちも緊張感のある中で学習に集中でき、いろいろな先生によいところを認めてもらえるので、学習の定着や学習意欲の向上も期待できます。

これからも授業公開を続け、授業の質を高め、子どもたちの学力向上を目指していきたいと考えています。



（学校教育課 指導主事 松浦和之）

集落支援員通信

「14地区におじゃまします」

集落支援員って何？

どこに行っても聞かれます。「何をやる人なの？」と。私たち集落支援員の主な活動は次の3つです。

- ① 集落を見守ること
- ② 各種団体をつなげること
- ③ 集落を元気にする新たなサポーターとなること

実際に住民の皆さんと話し、一緒に課題を発見し、どのように解決していくのかを話し合います。ひとこと言うなら「集落の自主運営能力を高める」ためのお手伝いをします。

解決のためには、住民のみならず一人ひとりの声がとても重要です。町内で私たちを見かけたときは、気軽に声をかけていただければ嬉しいです。

住民の皆さんと一体となって、私たちの住む海士町を一層、住み心地の良い場所に、より楽しい場所にするためのお手伝いができればと思います。

集落支援員の活動概要

平成22年度から集落支援のための基礎調査が開始され、今年度から本格的に集落支援員が導入されました。今年5月から常勤スタッフ4名、非常勤スタッフ3名体制で活動をスタートしました。

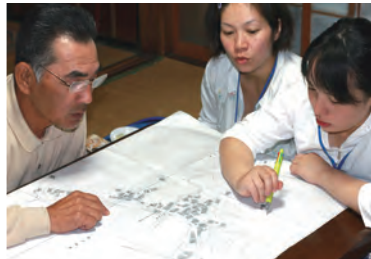
今年度は、支援要請のあった多井、保々見、知々井、東、日須賀、崎の6地区から集落支援を開始します。



私たちが集落支援員です！
(後列左から)
中村誠、澤谷あゆみ、西上ありさ、中西雄也
(前列左から)
花房育美、ムラ一和代、万代忍



■まずは3地区に
おじゃましました
多井、保々見、東に、ヒアリングと地区の空家、危険地帯がないかなどの調査に伺いました。多井は小さな集落ですが、団結力がありました。工夫しながら仲良く暮らしていることがわかり、とても勉強になりました。また、どの地区にお邪魔しても住民の皆さんから希望とパワーをもらうことができました。ご協力いただいた地区の皆さんありがとうございます！



集落支援員養成講座
海士町版 白熱教室の開催

5月16～18日の3日間に渡り、京都造形芸術大学の山崎亮教授を招き、集落支援養成講座「海士町版白熱教室」を開発センター和室にて開講しました。

参加したのは、集落支援員をはじめ、役場の各課の若手職員ら総勢33名です。

この3日間で参加者は、海士町の集落がおかれている現状を知り、自分たちで解決に導くにはどうすればよいかを講義や実践を交えて学びました。

参加した人たちからは、「実践的で、勉強になった。講座で薦められた本をすぐ購入した」「濃密な時間を過ごせた」「困ったことを相談できる仲間ができた」などの意見がたくさん聞かれました。



海士町環境美化推進対策会議よりお知らせ

下の表を見て下さい。この数字は、これまでにボランティア活動等により回収されたゴミの量と、毎月1日に行われている「ゴミを拾おうデー」に回収されたゴミの個数です。

毎年回収しても、不法投棄やポイ捨ては減っていません…。
みんなでルールを守り、ポイ捨ての無いきれいな海士町にしていきたいと思います！



《 道路清掃、海岸清掃等ボランティア活動によるゴミ収集量 》

単位：kg

	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22
地区清掃等による回収	—	—	—	3,040	3,210	2,730	3,860
その他清掃による回収	—	—	—	3,090	4,170	4,960	2,630
合 計	5,190	10,140	4,820	6,130	7,380	7,690	6,490

《 ゴミを拾おうデー 収集実績 》

単位：個

	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22
空 き カ ン	—	309	871	966	505	635
空 き ビ ン	—	16	92	113	42	32
空 き P E T	—	—	44	143	68	102
そ の 他	—	19	46	1	0	0
合 計	368	344	1,053	1,223	615	769

シリーズ 循環する島を目指して④

「地域の方とコミュニケーションがとれるのがうれしい。」

今回は私達が出したゴミを運ぶ、ゴミ収集車を追いかけました。この日は可燃ゴミ回収の日で、この道約14年の山中さんと2年目の若手、番家さんが担当。午前は海士方、午後は上方で、集落の隅々までまわります。収集車は、後ろにゴミを積みスイッチを押すと、圧縮しながら中に入る仕組みになっています。圧縮すると「パン！」と袋が破裂し、小さなゴミや生ゴミの汁が飛んでくるので注意が必要です。収集を続けていると、生ゴミから出た汁で、どんどんにおいがきつくなり、近寄れない程でした。一番困るのは、指定以外のものが混じていたとき。この日も袋を置くと「コン！」という音がし、ビンが混じているのに気づきました。缶が混じていることもあり、アルミ缶を燃やすと溶けるので焼却炉を傷めることになるそうです。

ゴミ排出のピークは、帰省客が多くなる8月中旬。一年のうち一番暑くて量も多く、更においもきついという状態。そんな中、収集場所を一カ所ずつ乗り降りしながら回収するのはとても大変なことだと感じました。

反面、この仕事の良いところを聞くと「地域の方とコミュニケーションがとれるところ」と番家さん。この日も、においがきつく暑さも感じましたが、多くの方が手をあげて挨拶してくださり、とてもうれしい気持ちになりました。

これからもゴミを出す時は、ゴミを回収しているおじさん、お兄さんの姿を思いながら、みんなでマナーを守っていただけたいですね。

【環境整備課・教育委員会】 問い合わせ窓口：シリーズ担当・井上
【Tel】2 - 1222 【Fax】2 - 1633



海士町内に77箇所の収集場所がある



収集を続けていると生ゴミの汁がたまり、においがきつくなる



募集！ ゴミを減らす暮らしの知恵

皆さんが暮らしの中でやっている、ゴミを減らす工夫を教えてください！海士の昔ながらの暮らしや、節約生活にヒントがあると思っています。電話、FAX、手紙などで気軽にご連絡ください。

★ゴミの出し方は、告知端末の「暮らしの便利情報」→「ごみの収集情報」でもご覧いただけます

島前高校だより

レスリング部、高校総体で団体優勝しました！

平成23年5月29日

記者：島前高校2年女子

5月28日土曜日、島前高校体育館でレスリングの高校総体と第5回少年少女レスリング大会が行われました。

午前中の高校総体では、島前高校、松江工業高校、石見智翠館高校が参加し、団体戦と個人戦が行われました。選手が一つ一つの試合を最初から最後まで全力で戦い、間髪無く繰り返し続ける姿勢など、普段のきつい練習に耐えてきた成果が発揮された内容となりました。また試合中は選手だけでなくチームの仲間全員が必死に応援して声をかけたり、アドバイスをしたり、ポイントを取り取られるたびに一喜一憂していたのも印象的でした。島前高校レスリング部のチームワークと団結力が強く感じられました。各高校との熱戦を繰り広げた末、団体戦では島前高校が17年連続23回目の優勝を飾りました。

相手選手を抑え込む島前高の藤田将真主将



ちびレス選手に声をかける生徒



午後からは、少年少女レスリング大会でした。子ども達は始まる直前まで受け身やタックルなどの練習を真剣に行っていました。試合になると保護者の方々から厳しい言葉が飛び交う中、小さな体で必死に試合を繰り返していました。負けて悔し泣きする子、勝ってお母さんに抱きついていく子、様々でしたが、どの子も戦う姿はとも力強く、真剣に試合に取り組み姿勢は高校生にも劣ることなくとても格好良かったです。

最後に表彰式がありました。なんと我が校の図書館司書である南家知子さんがベストセコンド賞で1位に輝きました。素晴らしい応援とサポートでした。おめでとうございます！

今回の大会で、島前高校のレスリング部の強さと団結力を改めて感じました。戦っている選手だけでなく、他の選手も一緒に応援したりアドバイスをしたり、一人で行うのではなく、みんなが一丸となっているところに島前高校の強さがあると思います。それはレスリングのみならず他の部活にも共通して言えることです。

今回の大会を通して、きつとみんな学ぶ所があると思います。それを活かし、これからも良い結果が出るよう頑張りますよ。

ソフトテニス大脇・中川ペア堂々のベスト8！

6月2日〜4日の「第49回島根県高等学校総合体育大会」に、島前高校からも体育系の部が参加し、全力を尽くして戦ってきました。中でもソフトテニス男子個人では、大脇政人・中川慎哉ペアが優勝候補の松江工業ペアを4回戦で撃破！ 準々決勝で敗れたものの、堂々のベスト8入りです。

最初は硬さが見られましたが徐々にペースをつかんで勝ち進み、4回戦の相手は、昨年度県選手権、新人戦、インドア選手権を制した優勝候補筆頭の松江工業の石田・水津ペア。序盤はリードしたものの相手も粘り強く、一進一退の手に汗握る戦いとなりました。二人はお互いにコミュニケーションをとりながら終盤も集中力を切らすことなく、ついに松江工業ペアを撃破しました。

準々決勝で破れましたが、離島のハンデを乗り越えベスト8入りを果たしたことは島民に大きな夢と希望を与えてくれました。7月21日から山口県宇部市で行われる中国大会での更なる活躍を期待します。



ふるさと講座 シリトス

海士町にある貴重植物

一番有名なのはクロキツタですね。オキタンポポやトウテイランを知っている方もいるでしょう。しかし、マルバウマノスズクサ(豊田)やダンチク(菱浦)となると、知っている人はほとんどいなくなります。海士町にも珍しい植物が結構あるのですが(誰も知らなくても)、その中で「特に海士が重要」というものを2つ紹介します。

○ヤマトキソウ(山鴉草)

ラン科。『レッドデータブック』という本があり、「産地が限られていて量も少なく、絶滅が心配される」植物が登録されています。日本全体を対象にした環境省版以外に、各都道府県で独自に作成したのも公表されています。「珍しい」という言葉には意味が色々ありますが、この本に載っていたら「数が少なく、もうすぐ無くなりそう」という意味での珍しさです。

本種は、実に全国41の都道府県で登録されていて、数年後には日本から絶滅しそうな不気味な感じです。島根県レッドデータブックでのランクは「情報不足」、お隣の鳥取県では「絶滅危惧I

類」の指定です。「情報不足」は「現状不明種」とも言い、過去にはあったのだが今現在自生が確認できない、という意味です。絶滅したかもしれない、絶滅したであろう、というニュアンスを込めて使われます。



ヤマトキソウ

何とそのものが海士町に健在です。場所は豊田の一角ですが公開できません。楚々たる雰囲気純白の蘭で、ちよつと口紅をつけています。証拠写真は今年の6月19日に撮ったもので、捜しまわつて5本(株)だけ確認できました。初めて気付いたのは30年以上前ですが、細々と生き残っていました。ただ、今にも消えてなくなりそうな状況にあります。昔、島後の五箇にも1ヶ所知られていましたが、とつくに見られなくなったようです。「島根県では海士町だけ」と考えてよいでしょう。

○ハナゼキシヨウ(花石苜)

今まではユリ科とされて来ましたが、最新のDNA分析による新体系で「チシマゼキシヨウ科」が新設されました。チシマ(千島)という名からわかるように寒地系の植物です。寒い地域の出身のくせに、北海道・東北には自生がないので、暖かい西日本で独自に進化したものと思われま(日本固有種)。ヤマトキソウとは異なり分布範囲がごく限られており、記録があるのは中部以西の18府県。どこも稀産種で、自生があるのにレッドデータに指定していない県はわずかです。

中国地方では島根県と鳥取県だけに自生しており、両県とも「絶滅危惧I類」に指定しています。島根県レッドデータブックに曰く、「県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているが、隠岐(島後)でも生育地はかなり限られている」。鳥取県でも産地は1ヶ所だけ、しかも「ハナゼキシヨウ保護管理事業計画」というものまであって呆れます。

島後の産地というのは、鷲ヶ峰山頂付近と思いますが、そうだとすれば今やいつ絶滅してもおかしくない状態です。痩せこけた小さいのが数株残っているだけです。他には西ノ島の高崎山で見たことがあります。そこは「百年間人が入っていない」と聞いた深い谷で、ロープがないと近づけないような岩場でした。

そしてこれがまた、海士町に大量に生育しています。豊田地区の山地2ヶ所で、1つの山林は島根県の植林事業でひどいことになりましたが、周囲に少し自然林が残っていますので絶滅することはないでしょう。もう1つは「まず人は行かない」聖域とも言える場所、ここは踏んで歩くしかないほどの大群生地になっています。「高地の岩上に生える」というイメージにはそぐわない光景です。

今ちよつと満開。小さな白い花を空中に浮かべ涼しげです。鉢植えて栽培してみたくりますが、そういう向きは園芸店でお金を出して買って下さい。両種とも大山隠岐国立公園の指定植物になっていますので、採集するためには環境大臣の許可が必要です。黙って採集しても日本には罰則はないでしょうが、欧米だと直ちに手が後ろへ回ります。



ハナゼキシヨウ

(豊田 丹後亜興)